合志市
KOSHI CITY

合志 魅力
合志市 図鑑

今年もGO！
参戦

鈴鹿8耐

— Suzuka 8 -hours —

by GOSHI Racing

合志市にある合志技研工業の整備室
６月下旬、２回目の鈴鹿８耐参戦に向け
新たな車両の製作が続いていた

予想以上の結果を出した 初の鈴鹿８耐

社内のツーリングクラブを母体に、平成26年（2014年）に発足した『GOSHI Racing』。当時、『世界最強の二輪排気・車体メーカー』を掲げた合志技研工業にあって、マフラーの開発に必要なデータやノウハウを得るという使命を担ってきた。令和4年（2022年）には、世界耐久選手権の一つで、日本最大のオートバイレース『FIM世界耐久選手権 鈴鹿８時間耐久レース（鈴鹿８耐）』に初参戦。自社のマフラーを装着したバイクで12位完走を果たし、“GOSHI” の高い技術力を証明した。

「最初はそんなに期待もされない雰囲気でした。それが12位完走と。“感動した”とか、いろんな言葉をいただき、“来年も行くぞ” と」（永田 郁晴 前監督）

二輪車業界を取り巻く環境変化

しかし、令和５年（2023年）、チームの活動は転機を迎えた。二酸化炭素など、地球温暖化の原因とされる温室効果ガス。政府は、令和32年（2050年）までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする目標を掲げている。二輪車業界も、温室効果ガスを排出しない『EV化（電動化）』にシフトしつつあり、合志技研工業も、排気系の開発を縮小する方針を決めた。このため、開発業務の一環としてレース活動を行ってきた『GOSHI Racing』は、規模を縮小して継続。部員たちは、業務を終えた後のプライベートな時間を使って、鈴鹿８耐への準備を続けている。

提供：合志技研工業

ながた ふみはる
永田 郁晴 さん
（GOSHI Racing 前監督）
なわた まさのり
縄田 正憲 さん
（GOSHI Racing 監督）

同じ目標へ　“勝つこと“ にこだわる

同じ目標に向かい、結果を追求するー。そのことは、人材の育成など、社内に良い影響をもたらすのではないか、という。

「皆が、去年以上に責任感を持っている気がします。今年部員になった新入社員から “『GOSHI Racing』をきっかけに合志技研工業に入社した “ と聞きました。人材確保や、従業員のモチベーション向上につなげ、社外を含め、多くの感動を与えられるチームでありたいですね」（縄田 正憲 監督）

「メーカー側の開発が、まだそんなに進んでいないとはいえ、EV化に備えるため会社の方向性が変わり、本業とチームのつながりは小さくなりました。一方、開発部門以外から “実はやりたかった” と手を挙げ、チームに入ってきた人もいます。負担は大きく、好きじゃないと出来ないですけど “レースで勝つこと“にこだわることが出来ます。そういう意味では、理想の活動になってきた、とも言えます」（永田 郁晴 前監督）

合志市代表として、参戦

８月４日から６日に開催される鈴鹿８耐。二輪車メーカーの強豪チームなどが参戦を予定する中、耐久レースは、一発のスピードではなく、チーム全体の力が試される。事前のテスト走行が去年ほど十分には行えないといったハンデはあるが、“GOSHI” の名が刻まれたマフラーなどを装着した新型バイクが夏の鈴鹿を駆けることで、合志市に、元気な企業とレーシングチームがあることを日本、更に世界にアピールする絶好の機会となる。

「合志市代表、日本代表という意識で活動しています。いずれ合志市から観戦ツアーが組まれる、愛されるチームになれればと思います」（縄田 正憲 監督）